

幼児期(3~5歳)だからかんたん! 幼児期だからできる!

# 漢字で教える、漢字教育。

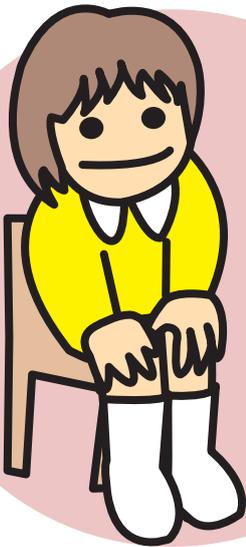
## 「漢字教育」には、どんな効果があるの?

- ①言葉の数をどんどん増やします。漢字は言葉そのもの。漢字を覚えることは「言葉」を覚えることと同じことです。幼児期に多くの言葉を獲得することは、脳の発達のために、とても重要な役割を果たします。
- ②やがて読書を楽しむ習慣がつかます。漢字=言葉をたくさん覚えるからです。
- ③また、集中力・静かに聞く態度も育ちます。自然に、無理なく漢字に接することで、集中力や考える力が高まっていきます。



## 「漢字教育」って、どんな教育?

- ①「立腰の姿勢（足裏を床につけて、手はおひざに）」から始まります。
- ②いきなり「漢字かな交じり」の絵本を、先生と一緒に読みはじめます。漢字がどんどん出てきますが、園児はぜんぜん気にしません。むしろ、興味を持って注目し、読み方をすぐに覚えはじめます。
- ③毎日、絵本・ことわざ・俳句・詩集を、「漢字かな交じり」で読みます。要する時間は、15分~20分ほど。
- ④書き取りはしません。毎年絵本を10冊、3年間で30冊読むことに専念します。
- ⑤園内は、全部漢字で表記。園児の氏名や教室の札、歌詞や注意事項など、まわりの言語環境を全部「漢字かな交じり」にします。
- ⑥知育偏重やエリート教育ではありません。ごく自然に興味に応じてすすめられる方法です。



### 先生や保護者の感想

- ★集中力が高くなった。
- ★自分からすすんで本を読むようになった。
- ★園児の指導がしやすくなった。
- ★まわりの漢字に興味を持つようになった。
- ★家でも本を読むようになった。
- ★弟、妹に絵本を読み聞かせるようになった。

等

### 導入はかんたん? .....

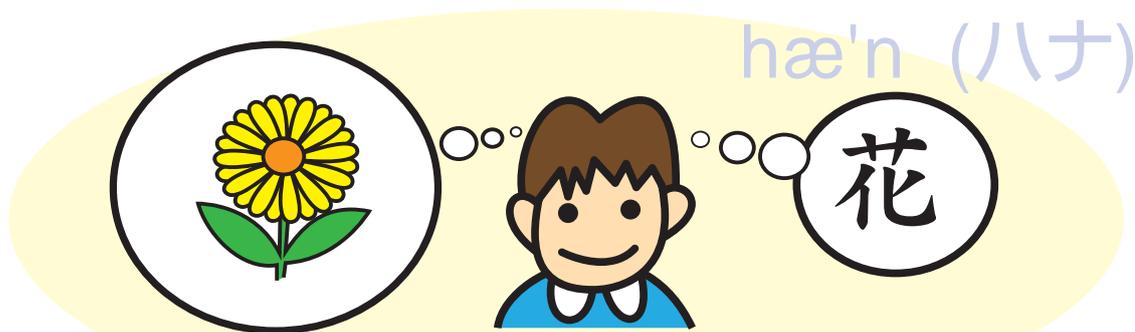
- ★すぐに導入できる
- ★だれでも、効果があげられる
- ★費用が安い

# 「漢字を使って教育すること」とは？

## ★「言葉」とは？「漢字」とは？

「あなたは、何語で夢を見ますか？」。2カ国語以上の言語を話せる人に尋ねると、その時期に使っている言語で夢を見るそうです。人は、言葉でものを考え、理解し、概念を形成し認識を共有します。言葉の引き出しが多いほど、多様な思考をすることができます。

幼児期の早い時期にたくさんの言葉を獲得することによって、その後の理解力や思考力などの知能が発達します。その「言葉」を表現する中心が、日本では「漢字」なのです。



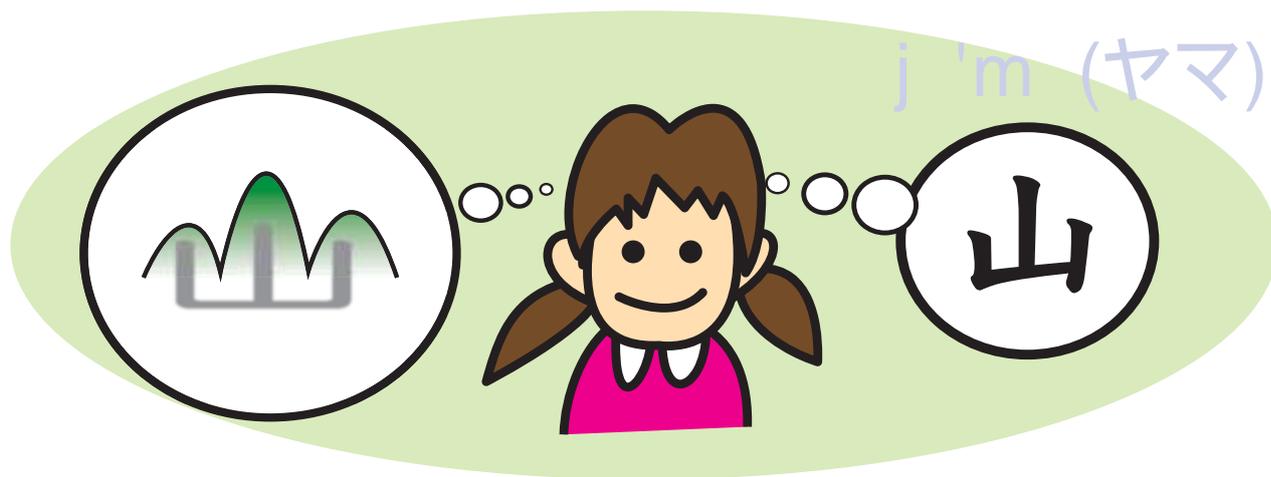
## ★「漢字力」という能力

私たちは、日本語を通してあらゆる知識や能力を身につけます。その日本語の中で、やはり「漢字」が中心となります。漢字を覚え、文字に興味を持つようになれば、自然に読書につながります。読書を通してさまざまな世界を体験し、考える力や表現力、感受性が養われます。幼児期から漢字に触れることの意味がここにあるのです。

## ★幼稚園や保育園での「漢字教育」

私たちは、周囲の情報の大部分を、視覚を通して獲得します。つまり、目で見て形状（図形）として認識するのです。漢字は、まさに「図形」です。今まで、日本の教育は、読み聞かせ、つまり音声で言語を伝えようとしていましたが、これだけでは不十分であるとする学者が増えています。

今までは、「3歳～5歳の園児に、文字で言葉など教えられっこない」と決めつけていましたが、実はこの時期は、記憶力がいちばん高い時期で、しかも大半の情報は視覚によって得るので、漢字を図形のように覚えるのが、いちばん適している時期なのです。まさに、その時期である幼稚園や保育園の保育で、友達といっしょに、遊び感覚で楽しく漢字を覚えることは、幼児の脳の発達に大変有効です。



## ★形状で直感的にわかる。「読むだけ」のレッスン

ひらがなは、よく見ると、おもに曲線で構成されていて、どれもぐにやぐにやして、どちらかといえば判別しにくい文字です。いっぽう漢字は、四角形や縦横の棒が組み合わさって、それぞれ区別しやすい図形のような文字で、画数が多いからといって、必ずしも覚えにくい文字ではありません。漢字の読む力だけを育て、書かせることはしませんから、画数がある程度多くても関係がないのです。むしろ、見た目に区別しやすい形状になっているほうが好都合といえます。

うしとうま 牛と馬



## ★「漢字教育」で、園児が変わる?

熱心に漢字の時間に集中すること、それは、3～5歳児にとって、今までになかった集中の時間です。アニメを見るような受け身の集中、ゲーム機で遊ぶような集中、自由に遊ぶときの集中とは違い、先生の話静静地に聞く、先生とやりとりする、友達の発表を聞く、全員で声を出すなど、多様な場面で集中します。この繰り返しは、集中力だけでなく、静かに聞く力、共感する力、思いやる力を育てます。先生が、育てようと意図しなくても、「漢字教育」を通して育つ能力です。



## ★「読むこと」って、いちばん大事?

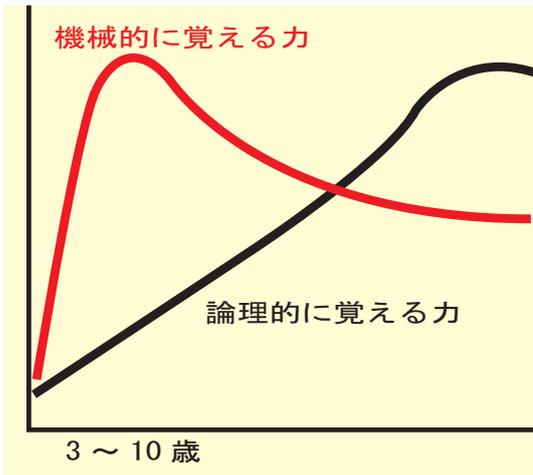
言葉は、「聞くこと」と「読むこと」で理解・認識するものですが、学習や知能の向上の場面、すなわち情報獲得の場面では、書物や画面で見て（読んで）理解することが、圧倒的に多いはずです。

優れた文章を多く読むことで、次第に聞くことも、話すことも、書くこともできるようになってきます。特に、現代はITの時代。聞くことよりも画面の文字を読むこと、書くことよりもキーボードから入力することのほうが多い時代となっています。

そして、読書量の多いことが、学力にも生かされることは、すでにいろいろな調査によって確かめられています。言葉を多く獲得した園児は、本を読んでもかたんに理解できるため、楽しくなって、さらにどんどん本を読みます。そして、考える力や表現力を身につけていくのです。



# ★「能力発達の基礎は、10歳までにできあがる」ってほんとう？



このことは、いろいろな教師の経験談や学者の研究で明らかになりつつあります。10歳までの時期を過ぎてからでは、漢字などを機械的に覚える力は確実に衰えてきます。

「小さいうちは自由に遊ばせたい」という親心は、十分に理解できます。

子どもにつらい思いをさせたり、辛抱させることもなく、楽しく友達と競い合う知能ゲームのような「漢字教育」なら、知らないうちに知能を発達させることができます。そして、本格的な学習への取り組みの分岐点となる小学4年生のころに、脱落することなく、確実に次のステップに上がることができるはずです。

## 推薦者のことば

日本語の「書き言葉」は、1946年に「当用漢字」が制定されてから、「漢字かな交じり」という形が定着しました。これは世界に例をみない独特のもので、読書にむいた表記法だといえます。現在の公用文や新聞、雑誌、書籍のどれをとっても「漢字かな交じり」で書かれています。

その表記法をそのまま使ったのがこの「漢字絵本」シリーズなのです。世の中で正しく使われている「漢字かな交じり文」を幼児期から読んでいく、そのための教材として最適です。

すでに、実践的に確かめられているように、幼児にとって、「漢字を読む」ことは難しいことではありません。むしろ、非常に興味を持ちます。幼児期は、耳から聞く言葉も大切ですが、目で読む言葉もきわめて大切です。目で読むには漢字があったほうがはるかに読みやすくなります。読めばそのまま言葉の獲得につながります。幼児期には、絵本の内容から育つまざまな感性だけでなく、言葉を増やすことも大事な学びの一つです。そういう意味でも、幼稚園や保育園で「漢字絵本」を読むのは大変意義深いことです。

ただし、強制的に漢字を教えこんだりしては、逆効果になります。遊び感覚で、ごく自然に漢字に接する仕方で行っていくのが良い方法です。



田中 好三  
漢字教育研究者  
元京都府立高等学校校長

## ジューン・ファースト「漢字絵本」の3大特徴

### ★選び抜いた作品

教育現場の先生に聞いた「教えた作品」を厳選。

### ★自然体で作成した本文

現代日本の普通の表記で綴られた文章。

### ★個性豊かな挿絵

若い作家の感性あふれるイラストを使用。

#### 【漢字絵本】

販売元 有限会社ジューン・ファースト

住 所 〒525-0055 滋賀県草津市野路町 2425番地の7

電 話 077-564-9860 FAX 077-564-9866

